

「災害時における医療機関の電波の安全確保に関する講演会」の開催結果

東海総合通信局(局長 磯 寿生)は、令和7年10月25日(土)、東海地域の医療機関における電波利用連絡推進協議会(会長 酒井 順哉：名城大学名誉教授)との共催により、「災害時における医療機関の電波の安全確保に関する講演会」を名古屋市内で開催しました。本講演会には、東海4県の医療機関において電波を利用する医療従事者や臨床工学技士など40名が参加しました。

冒頭、協議会会長の酒井 順哉氏が、「政府の地震調査委員会が、南海トラフの地震活動について、地震発生確率の計算方法を見直したが、南海トラフ地震は、いつ起きてもおかしくない状況であることに変わりはない。本講演会が今後の医療現場の安全対策につながるものとなることを願う。」と挨拶しました。



名城大学 酒井 順哉 氏
(協議会会長)

・講演1：
令和6年能登半島地震におけるBCM/BCPIについて
社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 理事長
公益社団法人全日本病院協会 会長 神野 正博 氏

恵寿総合病院において平成19年能登半島地震の経験などを経て策定した耐震建築化計画やBCM/BCP、その後発生した令和6年能登半島地震における被災状況、ライフラインが途絶



した中での医療活動等を共有いただくとともに、そこからの教訓についてご講演いただきました。

・講演2：
南海トラフ地震における高知県の対策
国立大学法人高知大学医学部 危機管理医療学講座
特任教授 西山 謹吾 氏

高知県災害医療コーディネーターとしての立場から、南海トラフ地震の被害想定、第4期南海トラフ地震対策行動計画の全体像、重点課題となる



「命を守る対策」の取り組みや成果、「命をつなぐ対策」としての総合防災拠点の整備状況などについてご講演いただきました。

・講演3：
病院における次世代PHS「sXGP」
独立行政法人国立病院機構京都医療センター
医療情報部長 中原 孝洋 氏

病院内の内線電話の構築手段として、従来型のPBX自営+PHS(またはDECT)や、クラウドPBXを用いる方法、FMC(固定携帯電話融合)、PBX自営+sXGPについて長所/短所を示した上で、



九州歯科大学附属病院におけるsXGPの導入経験から、PBX自営+sXGPの導入事例をご講演いただきました。



講演後、協議会分科会主査の松月 正樹氏が、電波環境協議会の「医用テレメータの電波管理実践ガイド」(令和7年6月発行)を紹介するとともに、協議会の取組として、東海地域の医療機関の「医療安全管理部門の方」に対するアンケートを実施している旨を説明し、当該アンケートへの協力依頼を行いました。

最後に、協議会副会長の神戸 幸司氏が、「本日の講演を今後の活動に活かしていただきたい。個人では活動が限られるため、本日の講演を所属組織内等でも共有していただきたい。」と挨拶し、閉会しました。



三重大学医学部附属病院
松月 正樹氏
(協議会分科会主査)

今後も医療関係者等を対象に、医療機関における電波の重要性和、安心・安全な利用への知識・理解を深めていただくよう、支援して参ります。

お問い合わせ先：電波利用環境課 052-971-9107

(一社)愛知県臨床工学技士会
神戸 幸司 氏(協議会副会長)